

(2010.9まで)	基本水量		超過料金
旧島原市			1㎡につき
	4㎡まで	472	—
	4㎡～8㎡	672	99.75

  

(2010.10～)	基本水量		超過料金
旧島原市			1㎡につき
	4㎡まで	567	—
	4㎡～8㎡	798	105

  

(変更なし)	基本水量		超過料金
旧有明町			1㎡につき
	10㎡まで	1050	105

## 言葉の解説

### ●法律と条例

国会で決めるルールが法律  
 地方議会で決めるルールが条例  
 条例は法律を破ってはならない

### ●人件費＝給与＋共済費（行政負担分）

給与＝給料（405万円）＋手当（319万円）  
 島原市職員の1人平均人件費：853万円  
 島原市職員の1人平均給与：724万円  
 手当319万円には期末勤勉手当167万円、  
 退職金積み立て87万円を含む。  
 （平成21年度予算ベース）

不公平はそのままで「今までどおりの料金なら黙って払うだろう。」という住民を馬鹿にした行政に「喝（かつ）！」。議会の良識を突きつける計画だった。

いくら市長与党でも、行政の怠慢を放置はしないだろう。心ある議員が、特に有明地区の議員は、必ずや賛同してくれると信じていた。

ところが現実にはメンツをつぶされた市当局の徹底抗戦に、協力する与党議員たちであった。反対の理由は……

○値下げによる減収約600万円はどうするのか？（基本料金を数十円上げる、職員人件費を少し下げる、など方法はいくらかもある。）

○値下げなどしたら、余裕ある自治体と見られて、様々な起債（借金）が認められなくなる。

○島原が上がるのに有明は下がるでは混乱する。（これには笑った。）

○どうせまた平成26年に上げるのだから、下げたり上げたりでは混乱を招く。（啞然）

○有明の水道整備には金がかかる。もともと有明時代からのお荷物なのだから、有明の者で負担すべきだ。（これには怒った。）

……などなど、あきれた内容であった。

林田勉議員は、かくも低レベルな質問討論に、じっと耐え（普通の市民ならブチキレるところ……）誠意をもって答弁したが「常識」は通じなかった。

「過ちを改めるにはばかる事なかれ」だが、大人たちはそこまで君子ではない。あまりにも当然の正しい議案であるということは、4年以上に渡り不公正状態を放置してきた責任とセットである。何故今までデタラメを放置していたか、市当局も議会もその怠慢が問われる。

こちらに絶対の「理」があったわけだが、「利」は通じて「理」の通じる相手ではない。甘かった。

議員提案で条例を可決する事で、議会は市長の言いなり追認機関ではなく、立法機関であることを内外に印象付けるつもりだった。

過重な年貢に苦しむ領民を救い、同時に議会の改革も狙った一石二鳥の作戦だった。

結果は惨憺たるものだった。法案に賛成した議員数は11名なのに、議決の時、賛成起立をしたのはたった7人だったのである。4名はどうした???

議場に姿がなかったのである。病気入院、体調不良による欠席などそれぞれ理由があっただろう。しかし体調管理までが議員の責任である。理由が病気であれ葬式であれ、欠席では賛成票ゼロである。結果責任は大きい。

○賛成者：林田・松坂・清水・馬渡・種村・松本・山下（議席番号順敬称略）